

青年農業者と東北農政局との意見交換会を開催しました

東北農政局では令和7年2月18日（火）に東北農政局会議室において、「青年農業者と東北農政局との意見交換会」を実施しました。

東北各県で活躍する20～40歳代の青年農業者9名に御出席いただき、自身の農業経営や地域での取組、新規就農者を地域に呼び込み定着させるための方策等をテーマに、意見交換を行いました。



＜意見交換の様子＞



＜出席された皆さんと菅家東北農政局長ほか幹部職員＞

【出席された青年農業者の主なご意見】

- ・3K（きつい、汚い、危険）等の農業に対する悪いイメージを払拭した上で、地域の特色を踏まえた農業の魅力や、新規就農者に対する資金面や技術習得のサポート等様々な支援策があることをもっと周知することが必要。
- ・地域外からIターン等で就農する場合、地域に溶け込むことが重要なため、地域おこし協力隊の取組など就農前から地域の人と関わる機会があるといいと思う。
- ・自治体主導による農地の仲介・紹介、研修生制度の活用、空き家マッチングや購入補助等の住まいに関するサポートが重要。

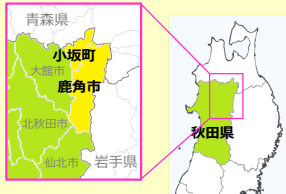
〔問合せ先〕 経営・事業支援部 経営支援課 022-221-6217

◆◆◆◆ 農政トピックス ◆◆◆◆



令和7年1月30日に、次の2つの産品が地理的表示（GI）に登録され、東北のGI登録産品は37産品となりました。

◆ 「かつの牛」〔生産地〕秋田県鹿角市及び小坂町



https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/register/0157/index.html

◆ 「川井赤しそ」〔生産地〕岩手県宮古市川井地区



https://www.maff.go.jp/j/shokusan/gi_act/register/0160/index.html



★各GI産品の特性などを知りたい方は二次元コードからご覧ください。

「食べて応援しよう！in仙台2025」

～絆に感謝！一緒に歩もう、復興のその先へ～
を開催します！

開催日時

- ・令和7年3月15日（土）
10時00分～16時00分
- ・令和7年3月16日（日）
10時00分～15時00分

開催場所

- ・錦町公園（仙台市青葉区）



東日本大震災による被災地3県（岩手県・宮城県・福島県）の「おいしいもの」を販売する、震災復興応援イベントです！
MCに阿部清人を迎え、さとう宗幸率いる「みやぎびっきの会」、庄司恵子&KASUMI、東北農政局の食の応援大使「ORI☆姫隊」や奥州仙台おもてなし集団「伊達武将隊」など、多くの出演者による歌・踊り・和太鼓などの楽しいステージが盛りだくさん！
むすび丸などの人気キャラクター達も応援に来ます！
お買い物に応じてさるなしドリンクなどがもらえるシールラリーや、クイズに答えて抽選にチャレンジ！食（ク）イズDEガラポンもあります!!（いずれも数量限定、無くなり次第終了）

●食べて応援しよう！in仙台の詳細はHPをご覧ください。
https://www.maff.go.jp/tohoku/press/keiei/syokuhin/250219_1.html



「みどりチェック」に取り組みましょう！

令和9年度からの本格実施に向けて、環境にやさしい農林漁業のための最低限の取組をチェックシートで提出・実践していただく「みどりチェック」をすべての補助事業等で試行実施しています。「みどりチェック」へのご理解と取組の実践をお願いします。

申請

申請時
(します)

報告時
(しました)

取組の実践



報告※令和7年度～

申請時
(します)

報告時
(しました)

確認※令和7年度～



「環境負荷低減のクロスコンプライアンス（みどりチェック）」の情報は
こちらから！

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/kurokon.html>



【問合せ先】東北農政局生産部環境・技術課 022-263-1111（内線4230）

高病原性鳥インフルエンザの発生が急増しています！！

家さん飼養農場では最大限の警戒をお願いします

特に大規模農場、既発地域、養鶏密集地域は具体的な対策強化を徹底

- ◆ 鶏の様子が少しでもおかしいと感じたら家畜保健衛生所に連絡を！
- ◆ 農場周辺にウイルスが大量に存在しているので、入退場時や敷地周辺の消毒により人・車両・塵埃によるウイルス持ち込み防止を徹底！
- ◆ 防鳥ネットの設置・修繕、隙間の穴埋めなど、カラス等の野鳥、野生動物侵入防止対策を再点検！

鳥インフルエンザに関する情報はコチラ <https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/index.html>



春は植物による食中毒が多発しています！

例年、春から初夏にかけて、有毒な成分を含む植物を、食べても安全な山菜や野草と間違えて食べてしまうことによる食中毒が数多く起きています。間違いなく食用だと判断できない植物は、絶対に採らない、食べない、売らない、人にあげないようにお願いします。



スイセン
(ニラと誤認)



コルチカム（イサラン）
(行者ニンニクやウレイと誤認)

野草、山菜に関する
情報はコチラ
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/no-uan/rinsanbutsu/naturaltoxins.html>



【問合せ先】東北農政局消費・安全部消費生活課
022-263-1111（内線4321）

「豚熱」・「アフリカ豚熱」の侵入防止！

豚熱は、東北では令和2年に山形県の農場で発生以降、宮城県と岩手県で発生しています。なお、野生イノシシの豚熱感染は、東北全県で確認されています。

近隣国では、豚熱及びアフリカ豚熱の発生が継続しており、侵入リスクが高い状況が続いていますので衛生管理を徹底しましょう。

豚熱に関する情報はコチラ
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/index.html>



アフリカ豚熱に関する情報はコチラ
<https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/asf.html>



野生イノシシの豚熱検査情報に関する情報はコチラ
https://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/csf/wildboar_map.html



※目的の二次元コードがうまく読み込めない場合は、指などで不要な二次元コードを隠した状態で読み込んでください。

～大豆生産力の向上を目指して～「東北大豆セミナー」開催

東北地域は、作付面積で全国の約4分の1を占める大豆の一大産地ですが、平均収量が長年全国平均を20kg程度下回り、平成20年以降は10a当たり140kg前後となっているなどの課題があります。

そこで、大豆生産者等の意識及び技術力向上を図るため、令和7年2月3日(月)に「東北大豆セミナー」を開催しました。今年は山形県に着目した内容を中心とし、360名程度の方に参加いただきました。

その中で、大豆生産の優良事例紹介として講演した山形県高島町の株式会社萩原（はぎはら）農園代表取締役の萩原拓重（はぎはらたくじゅう）氏（第52回全国豆類経営改善共励会農林水産大臣賞受賞）から、ニーズに合わせた多品種の栽培、明渠・暗渠による排水対策、中耕培土での雑草対策、収穫・調製作業等で工夫していること、委託加工による大豆菓子の販売等について、ご発表いただきました。参加者からは「萩原農園の取組みがとても素晴らしく、感銘を受けました。」などの声があり、質疑応答も活発に行われました。

講演する(株)萩原農園の萩原拓重氏



山形県会場における参加者の様子

その他、株式会社アサヒコ様から豆腐バーなど新商品の開発や実需者ニーズについての講演、東北農林専門職大学からダイズ潜在的収量との収量ギャップ削減についての講演、農研機構本部からディスク式高速一工程播種の技術情報、東北農研センターから新品種の開発動向についての講演を頂きました。本セミナーの講演の資料等を公開していますので、東北農政局ホームページをご覧ください。

東北大豆セミナー

<https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/daizu/kyougikai/symposium.html>



【問合せ先】東北農政局生産部生産振興課 022-263-1111（内線4087、4282）

地域からの便り

各県拠点では「農山漁村の季節の風物詩」、「農産物直売所、農漁家民宿等の取組」、「村おこしイベント」、「農山漁村の行事、お祭り」、「郷土料理」など東北各地域の取組や様子などを東北農政局HPで紹介しています。



極寒の気候風土を生かしたこだわりの「寒ざらしそば」
—岩手県・西和賀町—（2025年2月5日掲載） 詳しい情報はコチラ

◆「食・農ひとくち情報」の問合せ先

東北農政局企画調整室支援チーム
022-263-1111（内線4402、4076）



東北農政局HP 食・農ひとくち情報

<https://www.maff.go.jp/tohoku/hitokuti/index.html>

@MAFF_TOHOKU
東北農政局 公式 X
アカウントはこちら



@maff_tohoku
東北農政局 公式 Instagram
アカウントはこちら

